

# 発語する器官

～オルガンと現代詩の夕べ～

オルガン 米沢陽子

オリヴィエ・メシアン「昇天(L'Ascension)」全曲

詩・朗読 野村喜和夫

未刊詩集『スペクタクル』より

7月29日(金)夜

開場 7:00

開演 7:30

場所 キリスト品川教会

東京都品川区北品川4-7-40

電話 03-3443-1721(当日のみ)

全席自由 2000円(入口にて)

お問い合わせ 片野晃司(現代詩フォーラム・関東ローム舎)

TEL, FAX: 047-442-5470

Eメール cq2k-ktn@asahi-net.or.jp

主催 オルガンと現代詩の夕べ実行委員会

関連サイト <http://organ-poetry.seesaa.net/>

## 米沢陽子



桐朋学園大学附属子供のための音楽教室ピアノ科、東京純心女子短期大学オルガン科・同専攻科を経て、フェリス女学院大学音楽学部ディプロマコース（オルガン専攻）修了。学位授与機構より芸術学（音楽）の学士号を授与される。

オルガンを木田みな子、石田一子、酒井多賀志、宮本とも子、鈴木雅明、チェンバロを及川真理子、武久源造、通奏低音を坂由理の各氏に師事。

1992年、IIP研修生として渡独、G. マルクヴァルト氏のもとで教会音楽の研鑽を積むとともに、日本のオルガン音楽の紹介などを行なう。

94年、スペイン文化省奨学生としてダロッカ国際古楽コースに参加し、J.G. ウリオール氏にスペイン音楽を師事。以後、ルクセンブルグ、北ドイツ、ボストン等、各地のアカデミーで研鑽を積む。

国際音楽フェスティバル美濃白川1997イタリアオルガン音楽アカデミーにおいてゲラルデスキ賞および白川賞を受賞。

これまでにスロヴァキア、ドイツをはじめ、国内外でのリサイタル、室内楽、合唱団やオーケストラとの共演、放送等、幅広い演奏活動を行なっている。

2005年3月、東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程（古楽科バロックオルガン専攻）を修了。（修士論文：ザムエル・シャイト《マニフィカト》研究 ～タブラトゥラ・ノヴァを中心に～）

現在、同博士後期課程に在籍し、おもに16-17世紀ドイツのオルガン音楽を中心に演奏と研究に取り組んでいる。

日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会会員。

カトリック山手教会（横浜教区）、東京サレジオ学園ドン・ボスコ記念聖堂オルガニスト。

## 野村喜和夫

詩人。1951年10月20日埼玉県生まれ。東京在住。

早稲田大学第一文学部日本文学科卒。

現代詩の先端を走り続ける一方で、批評、翻訳、比較詩学研究なども手がける。

著作に

詩集：『川萎え』（一風堂、1987）『わがリゾート』（書肆山田、1989）『反復彷徨』（思潮社、1992）『特性のない陽のもとに』（思潮社、1993、第4回歴程新鋭賞）『草すなわちポエジー』（書肆山田、1996）『アダージェット、暗澹と』（思潮社、1996）『現代詩文庫・野村喜和夫詩集』（思潮社、1996）『風の配分』（水声社、1999、第30回高見順賞）『狂気の涼しい種子』（思潮社、1999）『幸福な物質』（思潮社、2002）、『ニューインスピレーション』（書肆山田、2003、第21回現代詩花椿賞）。評論：『ランボー・横断する詩学』（未来社、1993）『散文センター』（思潮社、1996）『討議戦後詩』（共著、思潮社、1997）『21世紀ポエジー計画』（思潮社、2001）など。編著：『戦後名詩選Ⅰ・Ⅱ』（思潮社、2001）など。翻訳：プチフィス『ポール・ヴェルレーヌ』（共訳、筑摩書房、1988）『海外詩文庫・ヴェルレーヌ詩集』（思潮社、1995）『フランス現代詩アンソロジー』（共訳、思潮社、2000）など。

朗読パフォーマンスや異分野アーティストとのコラボレーションにも力を入れ、「現代詩フェスティバル95 詩の外出」「現代詩フェスティバル97 ダンス／ポエジー」を主導したほか、海外の詩祭に招かれての朗読、CD「UTUTU／独歩住居跡の方へ」（1996）のリリースなど、多方面での活動を続けている。

CS番組「Edge未来を、さがす。」（2002）では、第一回目に「その、無限にそこ」というタイトルで自身の詩の世界が特集された。



## キリスト品川教会

品川駅高輪口を出、横断歩道を渡って左。5分ほど歩き、信号ふたつめの横断歩道を渡ってください。尖塔のあるレンガ色の建物がキリスト品川教会です。建物正面まで進んで、正面入り口からお入りください。

<http://www.gloria-chapel.com/map/map.htm>